

山形県道路中期計画 2028 の副題・テーマについて

これまでにご提案いただいた意見は以下のとおり。

1 生命を守り、地域産業発展の原動力となるみちづくり

(理由) 道路は、安全でなくてはならない。生命を守るのが第一。

山形県の明るい未来は、将来定住し、安定した生活ができる県であること。

その為には産業が活性化していかななければならない。

2 豊かさで地域を支えるみちづくり

(理由) 道路をつなぐ事は大切ですが、根本として地域を支えることだと思う。

3 ヒト・モノの対流を促進するみちづくり

(理由) 地域の魅力を発見し、その価値を磨き、発信することにより、県内外の都市と地域の間に対流がうまれる。対流という文言は、地域間の交流の活性化、インバウンドを含む観光振興、物流の円滑化による産業振興といった山形の目指すべき姿にも合うのではないか。

4 山形の未来へつなぐ安全・安心なみちづくり

(理由) 県土強靱化や交通安全対策により、防災・減災、安全・安心な人に優しいみちづくりが期待できることを示したもの

5 豊かな地域資源を生かすみち、元気で活力あふれる山形に

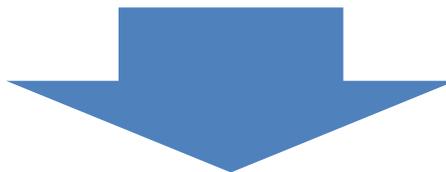
(理由) 道路整備促進により、観光資源・人材・文化等が有効活用され、産業や観光の振興を図るみちづくりが期待できることを示したもの

6 地域の発展をもたらす、人と地域を結ぶみち

(理由) 生活圏・都市間のネットワーク形成により、将来の発展や快適な生活をもたらすみちづくりが期待できることを示したもの

7 過去から現在・そして未来へつづく「みち」 ~ Our Future ~

(理由) 子の世代、孫の世代のためのみちづくり



<事務局案>

ヒト・モノの交流を促進し山形の未来をつなぐみちづくり

第3章 p.79

① みちの将来像

本県が、2015年（平成27年）10月に策定した「やまがた創生総合戦略」では、『地方創生のためには、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことが必要』と謳っている。

人口減少を克服し、人と地域が輝く「やまがた創生」の実現のためには、本県のもつ自然・社会・文化等の面で多様性に富んだ各地域が、それぞれの地域に密着した個性と価値を改めて発見・認識してこれを磨き、地域の魅力を他地域に発信することにより、首都圏や諸外国を含めた県外との交流人口の拡大を図ることが必要である。

道路は、これらの魅力ある地域から生まれる都市間・地域間の交流、産業振興、観光振興など、ヒト・モノの交流を促進する最も基本的なインフラ基盤であり、山形の未来をつなぐために欠かせないものである。

これらの認識を新たにするため、本計画のテーマとなる「やまがたのみちの将来像」を以下に掲げ、高規格幹線道路をはじめとした道路ネットワークの整備及び緊急輸送道路等における橋梁等道路インフラの機能強化や豪雨災害等に強い防災対策等を引き続き推進する。

また、近年の新たな動きとして、交流人口の拡大のための「道の駅」の整備に向けた支援、インバウンド観光の受入環境整備、自転車の利活用促進、国土交通大臣より新たに指定される重要物流道路等の機能強化、情報通信技術（ICT）の活用など、効率的かつ効果的な山形らしいみちづくりを推進する。

《やまがたのみちの将来像》（仮）

ヒト・モノの交流を促進し山形の未来をつなぐみちづくり